

「授業改善推進プラン」－課題・改善策－

1 国語 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	知識・理解・技能	読む	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度		十分とはいえない	十分とはいえない	十分とはいえない	十分とはいえない			
課 題	<p>○国語の学習内容において、学力・学習状況調査等の結果から「話す力・聞く力に関する内容」「書く力に関する内容」「言語の知識・技能に関する内容」「読む力に関する内容」のいずれにも課題がみられる。</p> <p>【話す・聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序立てて分かりやすく話すことに課題がみられる。 ・自分の考えを全体場で話したり、小集団場で話したりすることが苦手な児童がいる。 ・話し手を注視して、要点を聞き落とさずに聞くことに課題がある。 <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や考えを書くことに課題がある。 ・語彙や表現力が十分でないので、作文や感想文、日記などを書いても内容が凡庸になりがちである。 ・誤字・脱字・誤った文法を用いて文章を書いている。 <p>【言語の知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な語彙力が不足している。(慣用句、ことわざ、敬語なども含まれる) ・漢字の定着が不十分である。また、知っている漢字を適切に使うことができていない。 <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことに課題がある。 ・説明文では、筆者が伝えたいことを的確に読み取ることが苦手である。 							
改善策	<p>【話す・聞く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小集団での学習を多く設定し、話すことへの抵抗感を軽減すると共に、自分の考えを伝えられる場を意図的に設ける。 ・声の大きさ、速さ、話型を使った話し方など、話すスキルを高めるための指導を充実させる。 ・話していることの要点や、何について質問されたのかということについての確認を重視する。 <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成やまとまりを考えさせ、読み手に伝わるような表現力を付けていく。 <p>【言語の知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きや語彙力を高めるために家庭学習も取り入れながら基礎・基本的な力を定着させる。 ・東京ベーシック・ドリルを取り入れ、文法などについて、基本に立ち戻った学習を積み重ねる。 <p>【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取るための課題を明示するなどして授業のねらいを把握させ、自分の考えをもたせるとともに、自分の考えを深めたり、広げたりするための対話的な学習を意図的に導入する。 ・読書活動により本に親しませ、読解力を高めていく。 ・文学的な文章では、挿絵や写真などを効果的に用いて、内容の読み取りを視覚的に支援する。 							

2 社会 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度		十分とはいえない	十分とはいえない	十分とはいえない			
課 題	<p>○「社会的な思考力・判断力・表現力」「観察・資料活用」の技能」「基礎的な知識・理解」に関する内容が課題として挙げられる。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを言語化したり、文章化したりすることが不十分である。 <p>【観察・資料活用」の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> グラフや資料などから情報を適切に読み取ることが苦手である。 <p>【基礎的な知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題意識や社会生活への関心が十分に高まっていないので、知識や理解の定着が十分でない。 						
改善策	<p>【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関連する課題を提示するなどして学習に意欲的に取り組む児童を育成し、また観察や見学、調査などの体験的な活動を多く取り入れ、それに基づく表現活動の充実を図る。 社会的な事象が、自分達の生活に結び付いていることを、時事ニュースや視覚情報などを効果的に用いて、学習への関心や意欲を高めていく。 学習課題の焦点化を図り、考えるための視点を明確にして問題解決に取り組ませる。 <p>【観察・資料活用」の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科とも連携し、グラフや資料を正確に読み取る力を高め、データから分かった事実に基づいた表現活動の充実を図る。 資料を読み取ることの必要感をもてるよう学習内容とデータとの関連性を明らかにしながら学習を進める。 <p>【基礎的な知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 反復学習などを通して基礎的・基本的な学習事項（方位、地図記号、都道府県の位置など）の定着を図る。 視聴覚教材を効果的に利用し、学習内容への理解を深める。 						

3 算数 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	数学的な考え え方	技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度		十分とはいえない	十分とはいえない	一部に課題がある。			
課 題	<p>○知識や理解を生かして解決していく「数学的な思考力」と計算や作図の「技能」に課題がみられる。</p> <p>【数学的な思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決を図る際に、題意を把握できていない。 既習事項が身に付いていないため、思考するのが困難な場合が多い。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算力に課題がある。計算では、手を使って数える児童もいる。 四則計算、特にかかけ算九九が定着していない児童が多い。 コンパスや定規などの基本的な扱い方が十分に定着していない。 						

改善策	<p>【数学的思考力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物や視聴覚教材を活用し、問題の題意をつかめるように工夫する。 ・対話的な活動を通して、解決方法の比較や検討をし、よりよい解決方法を見つけていくように指導する。 ・3年生以上では、習熟度別少人数の学習形態を生かし、個に応じた指導を一層充実させる。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉、数、図、具体物などを用いて、具体的な場面に基づいて計算の意味を理解し、既習事項を活用して計算の仕方を考えられるようにする。 ・東京ベーシック・ドリルを活用し、反復学習を行う。 ・日常の生活場面と結び付けて考えさせるなどして、量感を養う。 ・計算の仕方、例えば繰り上がりや繰り下がりの際の小さな数字の書き方などを学校全体で統一して指導していく。 ・四則計算や作図などの基礎・基本的な学習の定着には、家庭学習や地域未来塾（放課後学習）も活用する。 ・既習事項をしっかりと確認してから、新しい単元の学習に入る。
-----	---

4 理科 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度		十分とはいえない	十分とはいえない	十分とはいえない			
課 題	<p>○「科学的な思考力・表現力」「実験・観察の技能」「基礎的な知識・理解」に関する内容が課題として挙げられる。</p> <p>【科学的な思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の結果を予想と照らし合わせて考えたり、実験をして分かったことを表現したりすることに課題が見られる。 ・仮説を立てる際、根拠を明らかにすることが難しい児童がいる。 ・仮説を立てる際、これまでの生活経験と結び付けて考えることが十分にはできていない。 <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験の仕方や手順が十分に理解されないまま実験を行ってしまう児童がいる。 <p>【基礎的な知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習して得た知識を日常生活と結び付けて考える力が不十分であり、深まりがみられない。 ・基本的な知識や理解の定着がなされていないことが多い。 						
改善策	<p>【科学的な思考・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で、課題を把握できるように、科学的な事象を焦点化する。 ・考察や仮説の書き方は、実態に応じて話型や視点を示すなどの手だてを講じることで、自分の考えを明確に表現しやすくする。 ・国語科との連携を図り、的確に問題把握する力及び表現力を養う。 ・観察や実験の結果を予想と照らし合わせて考えさせる。 <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験に必要な器具や道具の扱い方や実験の手順などの基礎的・基本的な学習の定着を図り、学習を進める。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活場面と結び付けて学習したり、視聴覚教材を使って学習したりすることで、知識や理解を深める。 ・ワークシートや東京ベーシック・ドリルを活用し、繰り返し基礎的な学習の定着を図る。 						